

# CASBEE<sup>®</sup> - 建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境2016年版, CASBEE 建築環境2016年版

|使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	熊谷工場新2号棟	階数	地上1F
建設地	埼玉県熊谷市成沢1214番3号	構造	S造
用途地域	工業地域、防火指定なし	平均居住人員	20 人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年10月 予定	評価の実施日	2017年2月17日
敷地面積	24,930 m <sup>2</sup>	作成者	山本 淳
建築面積	3,642 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	3,642 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.5** ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.3**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

**LR のスコア = 2.5**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合 工場としての機能を確保するとともに、可能な限り環境配慮をおこなう。		その他 0
Q1 室内環境 トップライト、外壁明り採り設置による昼光利用。 自然換気型ベンチレーター設置による熱気対策。	Q2 サービス性能 配管配線等は極力地上露出設置により、メンテナンスの容易性向上。	Q3 室外環境(敷地内) 今回の工事範囲には含まないので特になし。
LR1 エネルギー 昼光利用による照明電力節減。 自然換気型ベンチレーター設置による電力節減。	LR2 資源・マテリアル 有害な物質は使用しない。	LR3 敷地外環境 近隣の皆様には極力迷惑をかけないように運用していく。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# CASBEE埼玉県 重点項目シート










■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	熊谷工場新2号棟	BEE	0.5	BEEランク	★★
------	----------	-----	-----	--------	----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
3.0	+	1.6	=	4.6 
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上  	非常によい 6.8以上   	すばらしい 8.0以上    	

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	3.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.0
<配慮した内容を記述>			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	1.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	1.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	2.0
<配慮した内容を記述>			

 : 入力欄

**CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS**  
熊谷工場新2号棟

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、C  
■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		<b>Q 建築物の環境品質</b>							<b>2.3</b>
<b>Q1 室内環境</b>									
<b>1 音環境</b>		-	-	-	-	-	-		
1.1 室内騒音レベル		-	-	3.0	-				
1.2 遮音		-	-	-	-				
1 開口部遮音性能		-	-	3.0	-				
2 界壁遮音性能		-	-	3.0	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	-				
1.3 吸音		-	-	3.0	-				
<b>2 温熱環境</b>		-	-	-	-	-	-		
2.1 室温制御		-	-	-	-				
1 室温		-	-	3.0	-				
2 外皮性能		-	-	3.0	-				
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-				
2.2 湿度制御		-	-	3.0	-				
2.3 空調方式		-	-	3.0	-				
<b>3 光・視環境</b>		-	-	-	-	-	-		
3.1 昼光利用		-	-	-	-				
1 昼光率		-	-	3.0	-				
2 方位別開口		-	-	3.0	-				
3 昼光利用設備		-	-	-	-				
3.2 グレア対策		-	-	-	-				
1 昼光制御		-	-	3.0	-				
3.3 照度		-	-	3.0	-				
3.4 照明制御		-	-	3.0	-				
<b>4 空気質環境</b>		-	-	-	-	-	-		
4.1 発生源対策		-	-	-	-				
1 化学汚染物質		-	-	3.0	-				
4.2 換気		-	-	-	-				
1 換気量		-	-	3.0	-				
2 自然換気性能		-	-	3.0	-				
3 取り入れ外気への配慮		-	-	3.0	-				
4.3 運用管理		-	-	-	-				
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-				
2 喫煙の制御		-	-	-	-				
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.43	-	-	-	<b>2.6</b>		
<b>1 機能性</b>		1.5	0.40	-	-	-	1.5		
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-				
1 広さ・収納性		-	-	3.0	-				
2 高度情報通信設備対応		-	-	3.0	-				
3 バリアフリー計画		-	-	-	-				
1.2 心理性・快適性		1.0	0.50	-	-				
1 広さ感・景観		-	-	3.0	-				
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-				
3 内装計画		1.0	1.00	-	-				
1.3 維持管理		2.0	0.50	-	-				
1 維持管理に配慮した設計		2.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50	-	-				
<b>2 耐用性・信頼性</b>		2.7	0.30	-	-	-	2.7		
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.25	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.25	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	-	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	-	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.25	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.25	-	-				
2.4 信頼性		1.6	0.20	-	-				
1 空調・換気設備		1.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-				
3 電気設備		1.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備		1.0	0.20	-	-				

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>4.0</b>	0.30		-	<b>4.0</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>3.4</b>	0.30		-	
1	階高のゆとり	天井走行クレーン天端=FL+10.1m。	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ		1.0	0.40		-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>		直接支持土間コンクリート床により、トレーラー大型フォーク走行可	<b>5.0</b>	0.30		-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.8</b>	0.40		-	
1	空調配管の更新性		-	-		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.29		-	
3	電気配線の更新性	埋設なし、隠ぺいなしの配線ルート。	5.0	0.14		-	
4	通信配線の更新性		-	-		-	
5	設備機器の更新性	埋設なし、隠ぺいなしの配線ルート。	5.0	0.29		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.29		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.57		-	<b>2.1</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30		-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>1.0</b>	0.30		-	<b>1.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			1.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			1.0	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-		-	<b>2.5</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40		-	<b>2.2</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>				-		-	-
<b>2 自然エネルギー利用</b>		屋根・壁に採光部を設け、自然光を利用。	<b>4.0</b>	0.13		-	<b>4.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = -	<b>2.0</b>	0.63		-	<b>2.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>2.0</b>	0.25		-	<b>2.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>2.0</b>	1.00		-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		1.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-		-	
4.1	モニタリング		3.0	-		-	
4.2	運用管理体制		3.0	-		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30		-	<b>2.8</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>2.2</b>	0.20		-	<b>2.2</b>
1.1 節水			<b>1.0</b>	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.4</b>	0.60		-	<b>2.4</b>
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.22		-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>4.7</b>	0.20		-	<b>4.7</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用		☆☆☆材料のみ使用。	<b>4.0</b>	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>5.0</b>	0.70		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡剤不使用。	5.0	1.00		-	
3	冷媒		-	-		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30		-	<b>2.8</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33		-	<b>3.0</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.4</b>	0.33		-	<b>2.4</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>2.0</b>	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.7</b>	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33		-	<b>3.0</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制		1.0	-		-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			<b>3.0</b>	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	